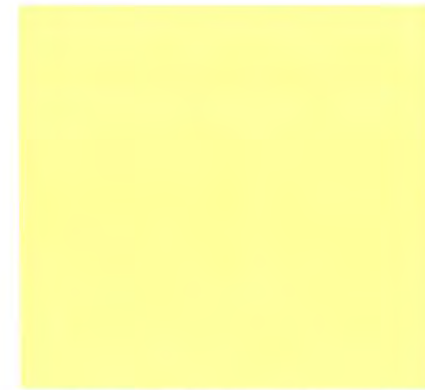




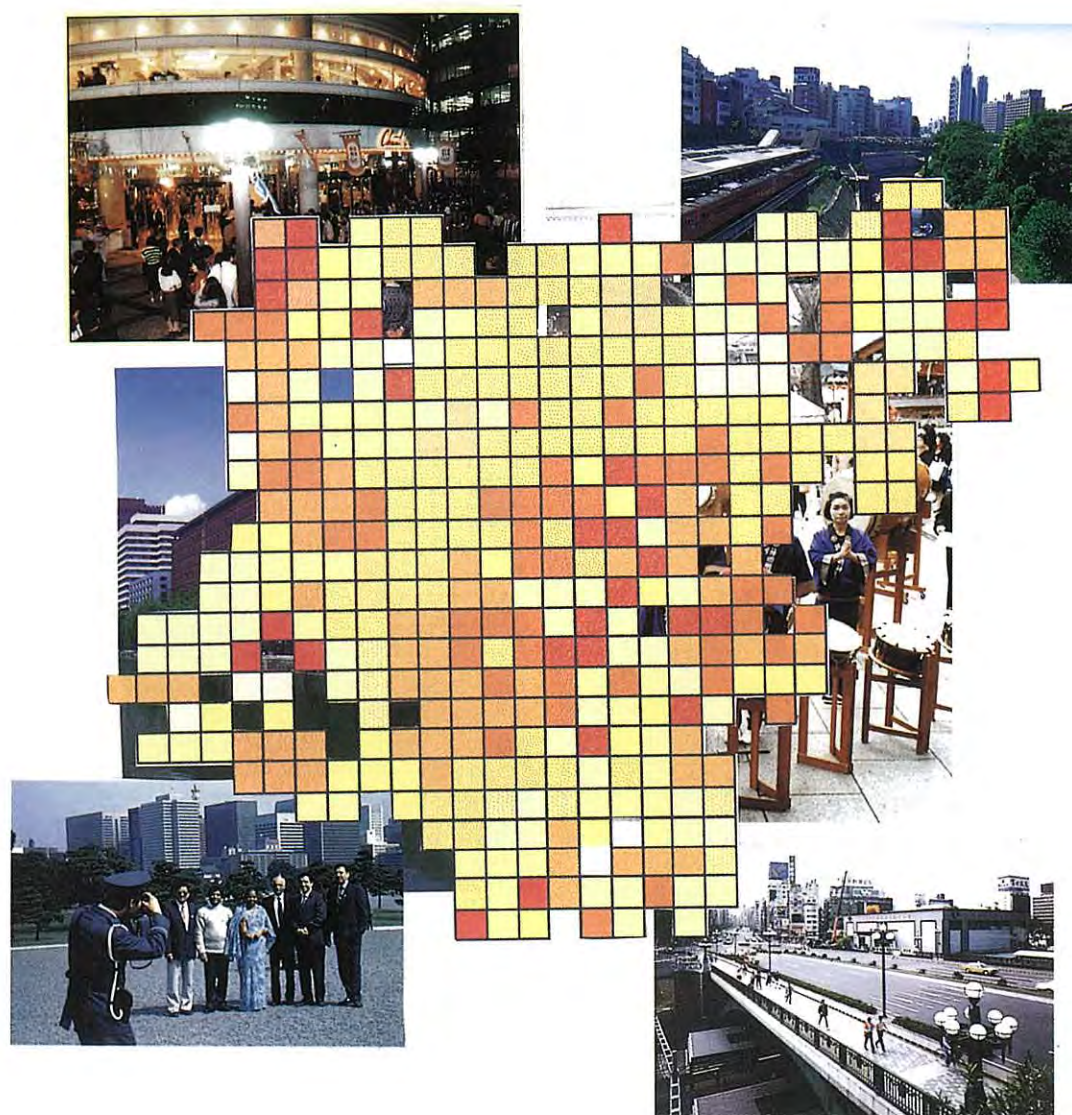
### 3. 多様な境界

山の手と下町に展開するまちの個性を活かす



## ●モザイク状の町●

都市は均一、同質的には発展しない。  
 近接する地域が相互に関連し合い、  
 繁栄を求めながら独自の領域を形作ること、  
 都市は個性あるモザイク状の町で構成されていく。

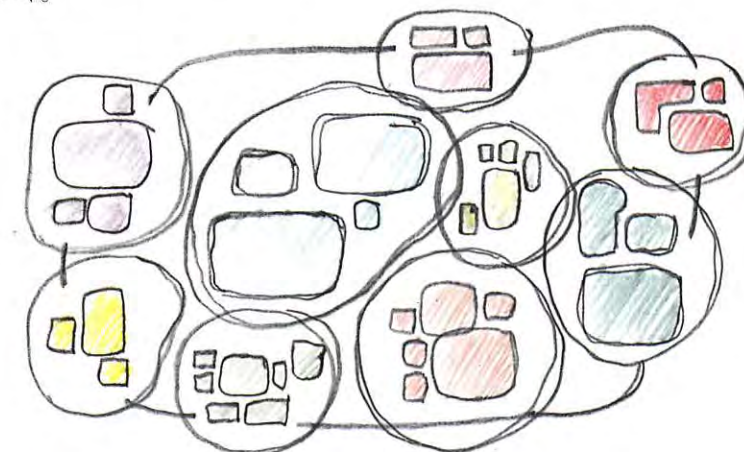


## 対 処

多彩な町のまとまりと、そこでの多様な生活様式を最大限尊重する。  
 異なるタイプのまちが相互に関連しながら地域全体でモザイク模様を  
 形成するようにしていく。

## 手法例

■まとまりのある地区やまちごとに基調となる特徴を活かし、多様な界隈を形成していく。  
 ■隣接する異なった地区の境は、両側のまちの尺度や形態などのバランスをとり、ゆるやかに  
 つなげていく。



## 関連キーワード

- 敷地の履歴
- 16
- プロムナード
- 56
- 中心となる広場
- 102
- 『都』の魅力
- 116

## ●プロムナード●

町の中心にはにぎわいがあり、  
買い物などができるプロムナードが必要である。  
そこには、行き交う人々をながめたり、  
ながめられたりする楽しさがある。



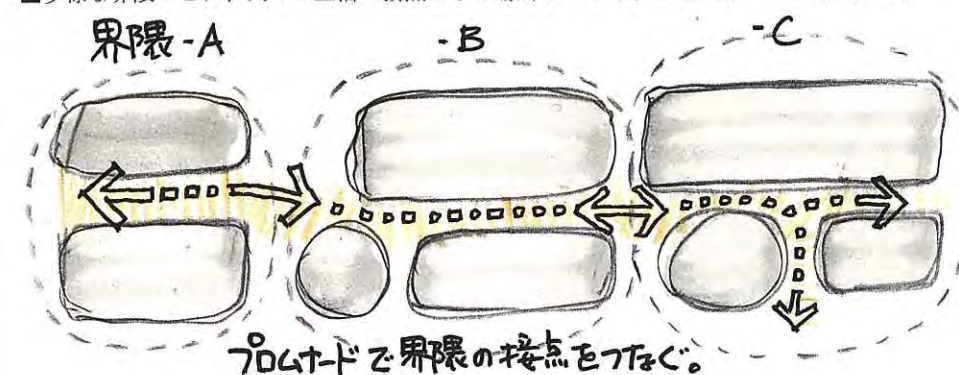
『日比谷シャンテ』

### 対処

活気のある場所や人々の集まる場所をつなぎ、中心となる歩行路を徐々に形成して行く。この歩行路に接する敷地利用はいきいきとした歩行活動をさそうような工夫をする。

### 手法例

■多様な界隈ごとに、人々の生活の接点となる場所をつなげ、プロムナードを形成する。



■プロムナードに面する低層部は、歩く人々に楽しい店舗構成など立ち寄りやすい店先にする。



■歩道に沿って一体的な公開通路などを設け、ゆとりある歩行空間を確保する。  
また、たたずんだりするためのスペースや休憩できるコーナーなども設ける。

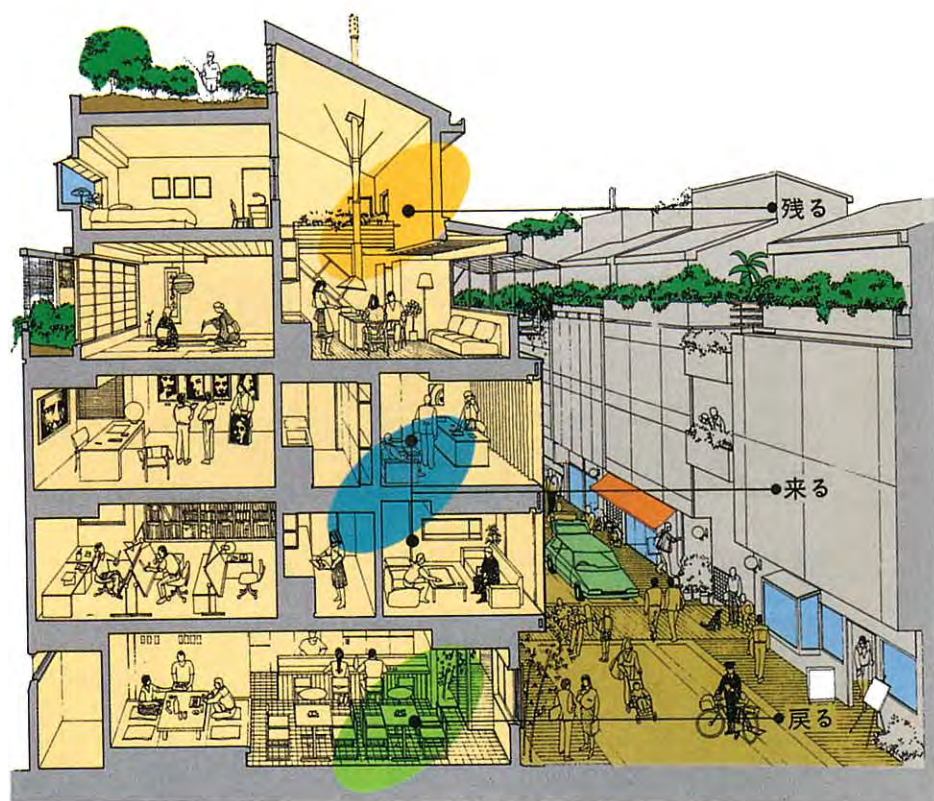


### 関連キーワード

- 広場から広場 ●38
- 歩行路の  
ネットワーキング ●78
- 交流の場所 ●80
- 人の気配 ●82
- 小さな人だまり ●86

## ● あいだにある住宅 ●

個々の建物がそうであるように、地域にも人々の手による  
日常的な維持管理や修繕が必要である。  
人々が住むことで、きめ細かい配慮や手入れがなされ、  
その蓄積が地域の魅力を生み出していくことになる。



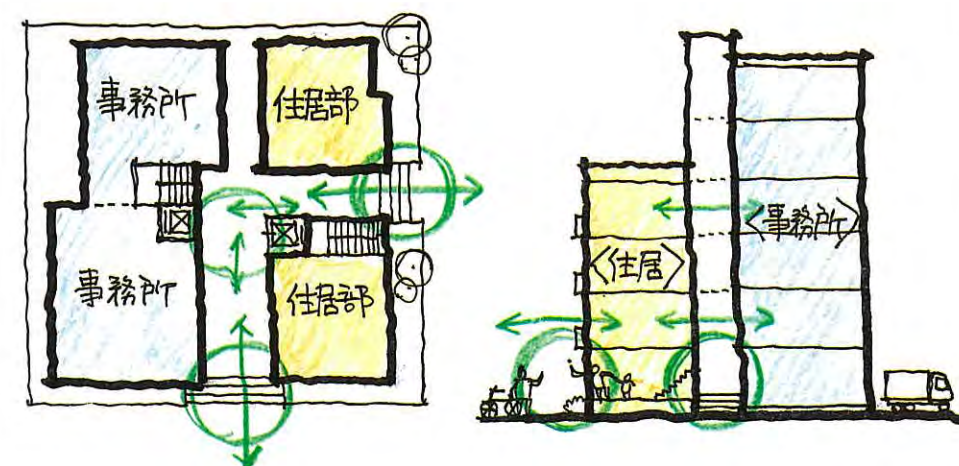
「巴計画」この計画では人が残る・来る・戻るということがキーワードに考えられた。  
千代田区 敷地共同利用促進制度パンフレットより

## 対処

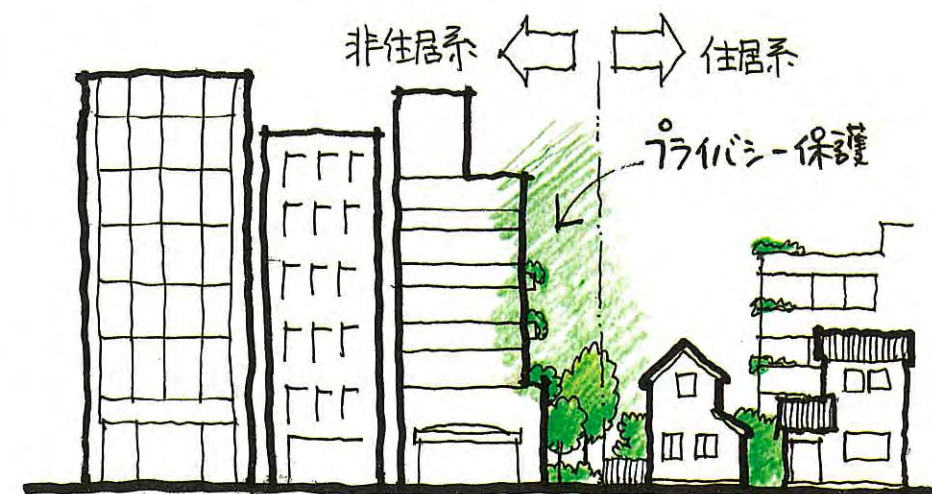
住宅が他の用途や機能と混在しながらも、住むに耐えがたい環境になることを防ぎ、常に人が快適に居住する状態を生み出す。  
そして、居住者とまちの人々との生活上の接点をできるだけ設けていく。

## 手法例

■複合ビルであっても居住空間を確保する。その場合は計画動線上に居住者とまちとの生活の接点を設ける。



■非住居系の建物を建てる際、隣地に住宅または住居系の建物がある場合は、プライバシーなどに配慮し、既存の住環境を保護する。



## 関連キーワード

- 子供の笑い声 ●50
- 世帯の混合 ●60
- 向こう三軒両隣り ●76
- 人の気配 ●82
- お年寄り ●90

## 世帯の混合

地域は単一の年齢層だけでは成り立たない。  
 幼い子供が自然に取り結ぶ絆は、家族をまきこみ  
 地域のコミュニティーを形成する大切な要素となる。  
 地域全体が多様な年齢層をもつことは、  
 豊かなコミュニティーを形成することになる。



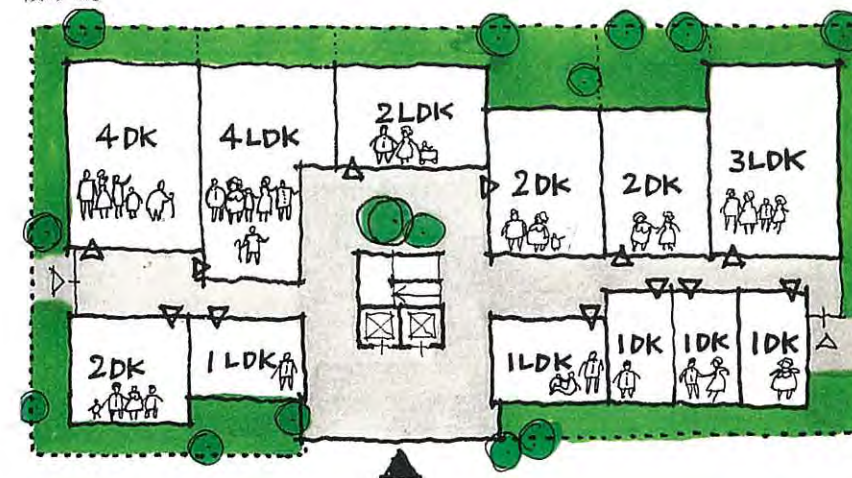
『日比谷公園』

## 対 処

まち、近隣、一つの建物など、さまざまなレベルで、若者、夫婦世帯、子供のいる世帯などの多様な世帯構成が隣りあって住めるような住居を生み出す努力をする。

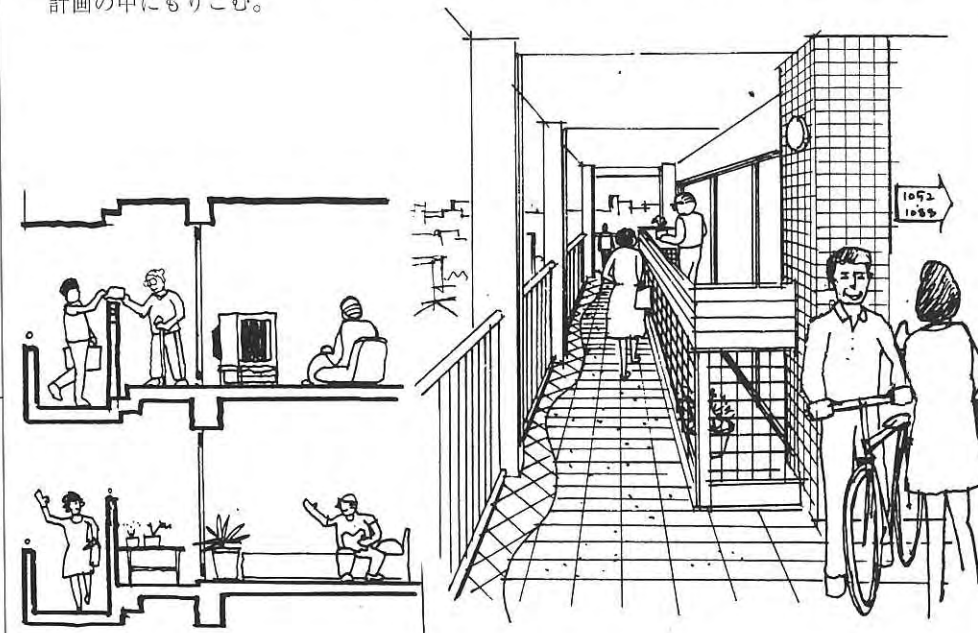
## 手法例

■集合住宅を計画する場合、できるだけ多様な世帯が住めるように、間取りや広さの種類を設ける。



混合世帯集合住宅概念図

■プライバシーを守りながら多様な世代が出会い、コミュニケーションできるしかけや工夫を計画の中にもりこむ。



立体路地空間の計画例

## 関連キーワード

- 子供の笑い声 ●50
- あいだにある住宅 ●58
- 交流の場所 ●80
- 人の気配 ●82
- お年寄り ●90

## ●間口の分節●

まちなみは、道路の両側で、似たような敷地割パターンを基礎にして、建物のつながりで形づくられる。この連続する間口のリズムが、道行く人々に心地よい視覚効果を与え、統一感のあるたたずまいを生んでいる。



1971年の神田神保町靖国通り沿いの建物図



1996年の神田神保町靖国通り沿いの建物図『資料提供 東京電機大学工学部建築学科兼田研究室』

## 対処

まちなみを構成する建物の間口の尺度を尊重し、既存のまちなみのリズムを損なわない配慮をする。

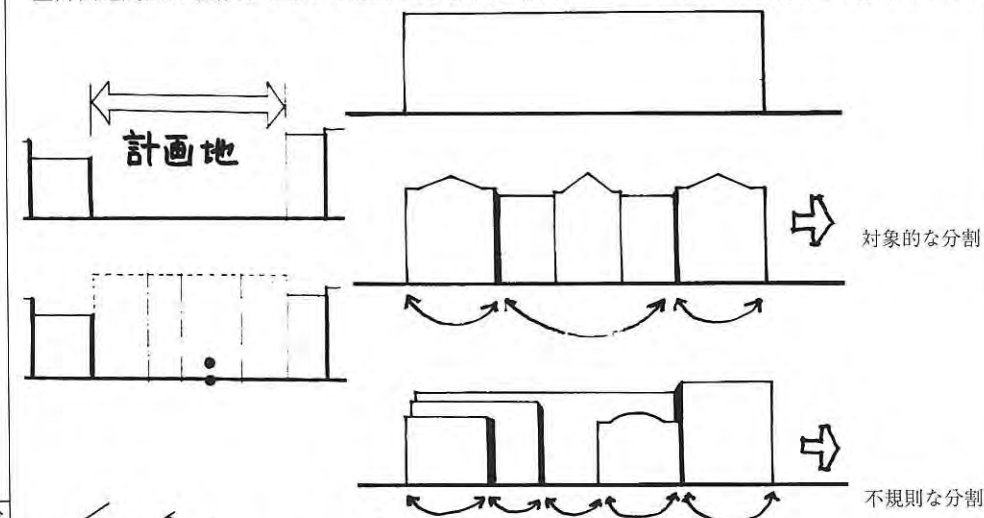
## 手法例

■大街区の敷地では街区方向に長大、均一、単調な壁面の連続を避け、巨大な壁の様にしない。



『(株) 丸石自転車ビル』

■計画地周辺の既存まちなみの間口や尺度や、歩く人のリズムを考えた建物間口の分節をする。



## 関連キーワード

建物を活かす広告

●70

表と奥の表情

●72

向こう三軒両隣り

●76

高さの分節

●106

門・玄関

●110



## ● 活きた路地 ●

路地は、人々の飾りのない生活風景をかいま見せてくれる。  
その人間的な寸法、尺度の中に、自然な遠慮や  
マナーが存在することで、路地は心地よく、楽しい場所になる。



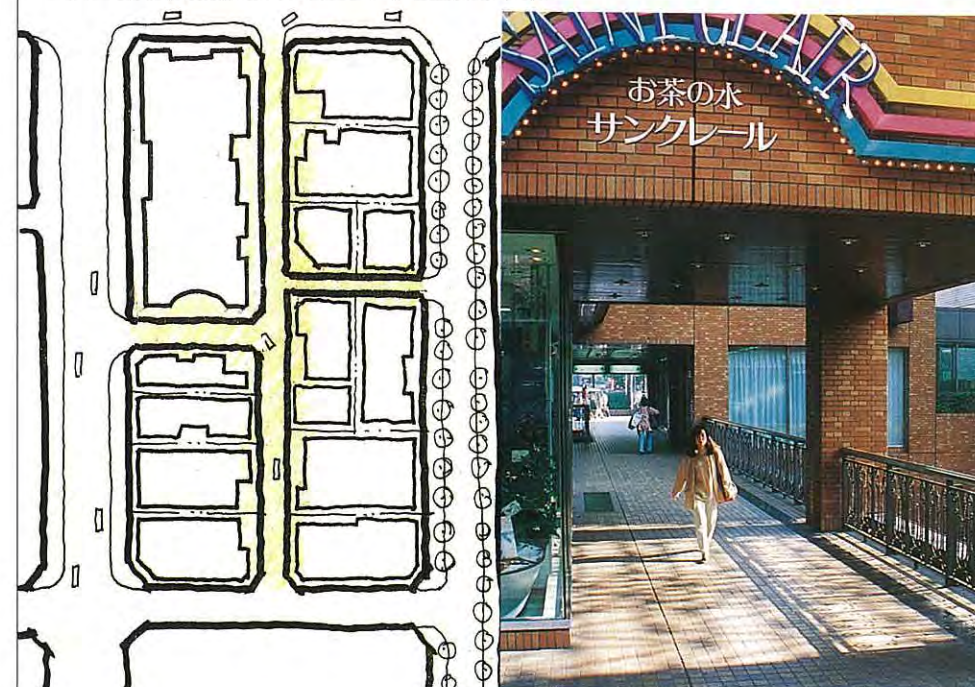
『麹町の裏路地』

### 対 処

路地は生き生きとした場所になるように計画する。そのためには路地に接する空間は人に対してほどよい尺度で構成する。

### 手法例

- 従来から利用されてきた路地や通り抜け通路は、大規模開発などに際しても計画に取り入れる。
- 路地に面する新たな建物は、路地を構成する尺度、形態、素材、細部に配慮する。また、人の気配や活気が感じられるような工夫をする。



通り抜け通路も新しい路地の形である『新お茶の水ビル』

- 裏となる道路面は出入り口や窓を設け、人の気配を感じさせる。



### 関連キーワード

- 表と奥の表情 ●72
- 歩行路のネットワーク ●78
- 人の気配 ●82
- 通りの性格 ●100

## 目立たない設備

屋上や外壁に設けられる屋外設備、配管あるいはゴミ置場や駐輪場などは生活するためには不可欠なものであるが、これらが、まちの表に無遠慮に露出されると見苦しいものになってしまう。



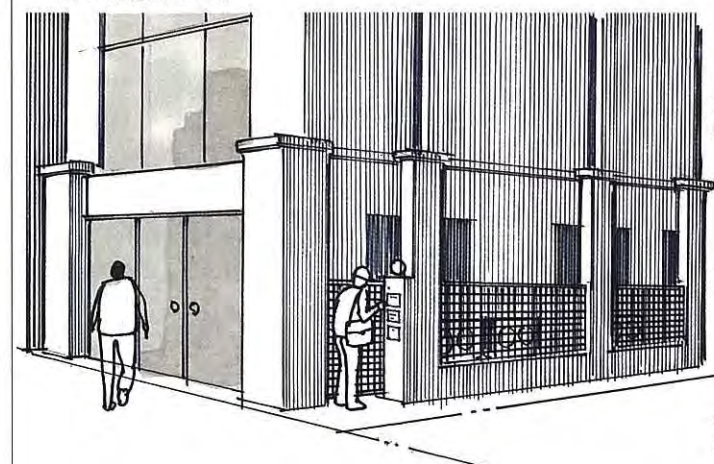
『目立つ設備』

## 対処

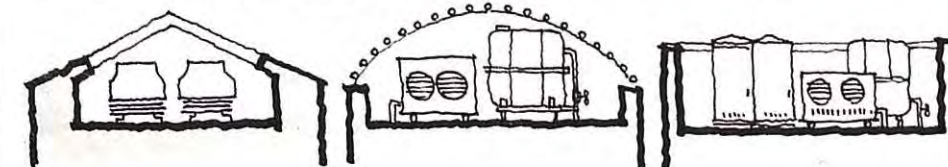
屋外設備機器類をなるべく建物と一体的に収容し、歩行路やほかの建物から直接見えないように配慮する。建物の裏口の周辺、ゴミ置場、駐輪場などの共用施設は、人々があいさつを交わす場として美しくありたい。

## 手法例

■設備機器類は配管に留意し、電気、ガス、水道のメーターの検針をしやすく、見苦しく見せない配慮をする。



■給湯機、空調機、キュービクルなど、建築後に設置される予定のあるものは、あらかじめ景観上配慮された設置場所を用意しておく。

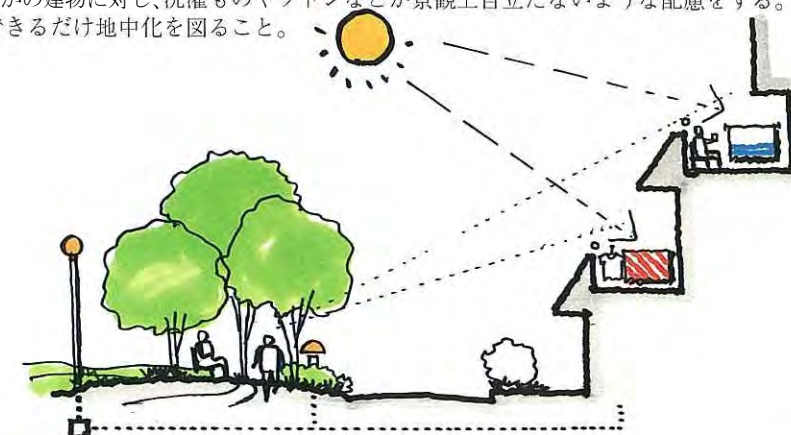


小屋裏を利用

目隠しで覆う

パラペットの立ち上げ

■歩行路やほかの建物に対し、洗濯ものやフトンなどが景観上目立たないような配慮をする。  
■電線類はできるだけ地中化を図ること。



## 関連キーワード

- 活きた路地 ●64
- 建物を活かす広告 ●70
- 表と奥の表情 ●72

## 見えない駐車場

車であふれた駐車場は歩く人々に威圧感を与えるばかりでなく、まちなみのつながりを切断し、地域の魅力をそこねてしまう。



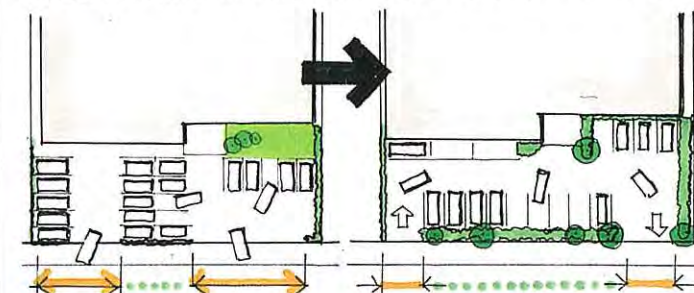
道路側に対して植栽と低い塀で駐車スペースを見えにくくした例

## 対処

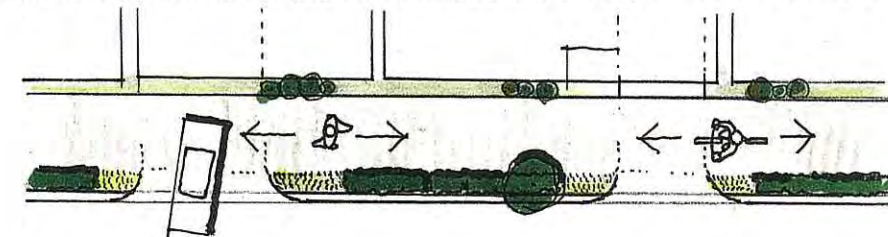
大規模な駐車場は外から車両や駐車施設が直接見えない工夫をする。  
1階部分の間口の大半を駐車場出入口としないように計画すること。  
また、歩道を大きく寸断する駐車場の開口部や車路を極力避けること。

## 手法例

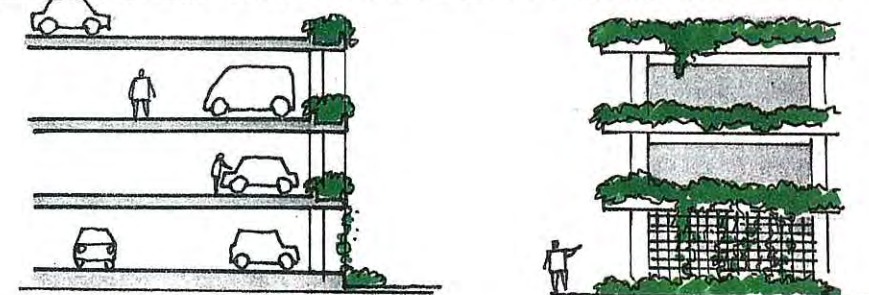
- 街路に面する建物はできるだけ1階部分の間口の大半を駐車場の出入口にしないように工夫する。
- 大規模な建物内に駐車場を収容する場合、出入口、アプローチのスペースを最小限にとどめる。



- 歩道の切り下げは歩行者が優先である。段差を少なくして歩きやすく、かつ美しく施工する。

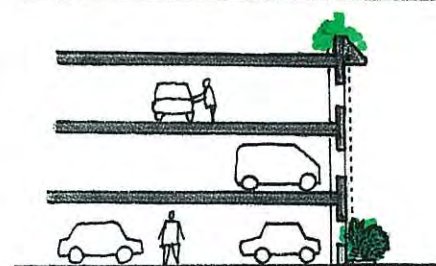


- 立体駐車場は外観が殺風景になりがちである。できるだけ遮閉や修景をほどこす。



## 関連キーワード

- 目立たない設備
- 66
- 通りの性格
- 100
- 門・玄関
- 110



車止めやパラペットを兼ねてプランターを設けたり、単調な壁面などをパネルで覆う。

## ● 建物を活かす広告 ●

看板や広告類が氾濫し、建物がつくるまちなみを見えにくくさせている。看板・広告類もわきまえるべき場所柄や品格がある。

建物は、看板・広告類を含んでデザインされるものでありたい。



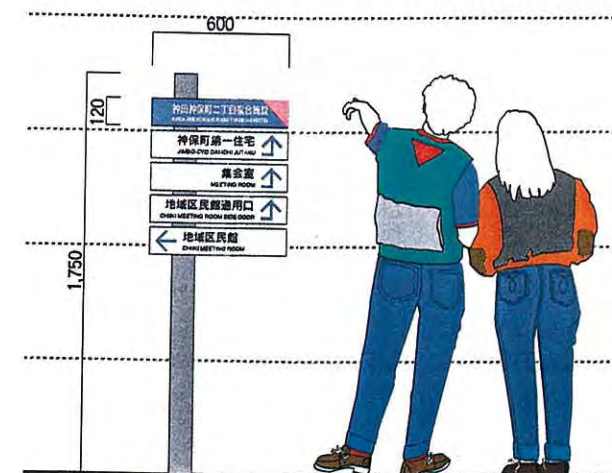
統一されたフレームのなかで表現しているが、奇をてらわない上品さがかえって見やすさを生み出している。建物と一体的にデザインされた映画広告看板の例。『有楽町マリオン』

## 対 処

建物本体があるべき姿を示し、看板・広告類はそれを引き立てるものにする。建物と一体的なものとし、できるだけ小さいものが好ましい。それらを設置する位置や色彩、内容にも細かい配慮をおこなうようにする。

## 手法例

■商店街などでは、派手な広告のきそいあいにならないよう、設置場所やディスプレイ、形態、規模、色など必要に応じて広告のあり方のルールづくりを検討するとよい。



複合している施設のサインを一体化して見やすくしている例  
『千代田区複合施設サイン計画』

■ネオンサインは特に設置する場所性や近隣環境に配慮すること。



店の性格に合わせて  
丹念につくられた看板

夜の効果を意識して考えられた看板だが、  
押さえ目の照度で近隣に溶け込んでいる。

## 関連キーワード

- 眺めの映える場所 ●12
- 人を育む場所 ●26
- ふさわしい色彩 ●114

## ● 表と奥の表情 ●

まちなみは表と奥の表情を隣合せにもっている。  
表が不特定多数の人々のにぎわいの場であれば、  
奥はプライバシーを尊重しあう場であり、  
表の生活を支える大切なバックヤードである。  
全てが表になってしまう建物は人々にくつろぎを与えられない。



現存する海老原商店の表、裏の表情  
『神田須田町にて』



### 対 処

私的な領域と公的な領域を明確にし、表と奥の性格に応じた表情を生み出す。  
まちの奥に生活者のための共有空間を確保し、地域の住環境をより魅力的に  
していく。

### 手法例

- 私的な領域に置くべき設備などは表に露出させない。
- 表通り、裏通り、路地へと大街区の表から奥へと段階的に変化する尺度、形態、土地利用形態などを尊重する。



『表の表情』



『奥の表情』

### 関連キーワード

- 活きた路地 ●64
- 目立たない設備 ●66
- 向こう三軒両隣り ●76
- 通りの性格 ●100

『奥の共有空間』